

JAとりで通信

第322号 2017年7月31日



発行

JAとりで総合医療センター

〒302-0022 茨城県取手市本郷 2-1-1
TEL 0297(74)5551 (代)

E-mail: toride@medical.email.ne.jp

URL http://www.toride-medical.or.jp/

発行人 新谷 周三

職場健診は毎年受診

高齢者ほどガンの発症リスクが高いと言われ、健康で長生きし、健康寿命を延ばすためにも「人間ドック・脳ドック」を受診することが勧められています。人間ドックで肝臓癌が見つかり、手術後も元気に暮らしている患者さんをご紹介します。

警備会社に勤務する、

私と人間ドック



家族のための思いやり

渡辺禎三さん、69歳。50歳まで都内の銀行に勤務し、血液検査が主の職場健診は毎年受けていました。50歳からは5年おきに人間ドックも受診していました。64歳の平成24年8月10日、当院の健康管理センターの人間ドックを受診。腹部のエコー（超音波）検査を担当した技士が肝臓に腫瘤を確認し、すぐに医師へ報告します。



渡辺禎三さん

ご本人の承諾を得て実名と写真を掲載しました。

検査が終わり、医師から「エコー検査の結果、肝臓腫瘍が疑われます。画像検査だけでは良性、悪性の区別は難しいので、精密検査が必要です。」と説明を受けました。渡辺さんは、「もしかしてガンでは？何も症状がないのに何で？」と驚き、不安になりました。一緒に説明を受けた奥さんも「どう

結果は肝細胞癌

手術の場合を考え、心臓の

してお父さんが」と信じられないような様子でした。血液検査の結果は、ガンマ-GTPの値が64（男性の正常値：10～50IU/L）でしたが、他の検査結果に異常はありませんでした。

集団健診だけでは見つからない場合も

職場健診等の集団健診は結果報告のプリントだけで

検査で定期的に受診していた某病院で精密検査を受けることに。結果は肝細胞癌。11月に肝臓の3分の1位を切除する手術を受けました。手術の翌日からリハビリのため院内を歩き回り、9日目に退院。2ヶ月後には職場に復帰し、現在も元気に勤務しています。退院後、抗がん剤治療は行っていない。3ヶ月に1回、血液検査、CT検査、エコー検査を受けていますが、今年の11月以降は1年に1回になる予定です。

ですが、人間ドックでは医師から直接、結果説明を受け、治療方法についても相談できます。「病気は早い段階で見つけた方が、色々な治療の選択肢を選べます。自覚症状がない段階で、人間ドックで見つかり良かったです。職場健診等の集団健診だけでは、見つからない場合もあるようです。やはり、人間ドックで詳しく検査してもらうのが大事です。妻と一緒に2、3年ごとに人間ドックを受診することにしました。人間ドックを受けることも、家族を安心させるひとつの思いやりです。」と話される、渡辺さんのお元氣そうな笑顔が印象的でした。

第16回医療連携講演会 懇親会

椎貝クリニック院長
椎貝達夫先生と
膠原病・リウマチ内科
鈴木文仁部長が講演



鈴木 文仁 部長



椎貝 達夫 先生

第16回医療連携講演会・懇親会が6月22日（木）に講堂で開催されました。地域医療連携の一環として毎年開催しており、今回も119名の皆様に出席して頂きました。講演会では、椎貝クリニック院長の椎貝達夫先生から、「透析回避」を掲げて42年、最近、ようやく明るさが見えてきました」と題して、長年に渡って積み重ねてこられた透析回避の実績を報告して頂きました。



懇親会の様子

また当院の膠原病・リウマチ内科部長の鈴木文仁医師は、「関節リウマチを知る、質の高い地域医療を目指して」というテーマで、関節リウマチの診断方法などについて講演しました。懇親会では、診療科ごとにテーブルを囲んで頂き、参加者の皆様がなごやかに歓談しながら情報交換をされました。この催しは毎年6月に開催していますが、今後も、地域の医療機関の皆様との交流の場として、お役に立てればと思います。お忙しい中、多くの皆様にご出席いただきありがとうございます。

第17回ボランティア表彰式

感謝状と記念品を贈呈



表彰式の様子

7月4日（火）、第17回ボランティア表彰式が行われ、18名のボランティアの

皆さんが出席されました。冒頭、新谷院長がボランティアの皆さんへ感謝の言葉と病院の近況を述べたあと、表彰式が行われました。ボランティア3年目となる松本良江さん、遠藤弘子さん、小野耕三さん、15年目となる箱守俊秀さんにそれぞれ感謝状と記念品が贈られると、皆さんは笑顔でお礼を述べておられました。表彰式後の懇親会では、図書や再来機の案内業務についている皆さんから、気になっている点などについて質問やご提案を頂き大変参考になりました。どうぞ、今後も宜しくお願い致します。

横井師長の多年の功績に対し 茨城県看護協会から表彰状



訪問看護ステーションとりで 師長
訪問看護認定看護師
横井 由美子

私は、2007年に訪問看護認定看護師となり、現在「訪問看護ステーションとりで」の師長として勤務しています。
皆様のご指導とご支援により、名誉ある表彰状を頂き感謝を申し上げます。今後も、訪問看護の役割を果たせるように、研鑽を重ねていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

関口看護師が優秀演題賞

～第44回関東農村医学会学術総会～



手術室 看護師
関口 友美子

第44回関東農村医学会学術総会が7月8日（土）に、オークラフロンティアホテルつくばで開催されました。
当院からは医師等9名が発表。手術室の看護師、関口友美子さんが発表した「腹腔鏡用鉗子の点検方法の見直しと写真パネル作成とチェックリスト改定がもたらした効果」が優秀演題賞に選ばれ、表彰状が授与されました。

院内保育所から お誕生日おめでとう

玉川 杏夏（たまがわ こなつ）さん

2さい

平成27年7月31日生まれ



甘えん坊で食べるの大好きなこなちゃん。できることが増えておしゃべりも上手になってきたね。これから大きくなるのが楽しみだよ。いっぱい食べて元気に遊んで大きくなってね。

・・・お母さんより

糖尿病について

糖尿病の合併症（10） 慢性合併症（その他の合併症）

内分泌代謝内科部長

糖尿病センター長 今井 泰平

糖 尿病は、コントロール状態が悪いと全身に障害（Ⅱ合併症）が生じてくる恐ろしい病気です。

合併症は、急性合併症と慢性合併症に分かれ、慢性合併症は前回の三大合併症の他にもありま

す。今回は糖尿病のその他の合併症についてお話しします。

三

大合併症は、細く小さい血管に起きる障害（細小血管症）で、糖尿病性神経障害・糖尿病性網膜症・糖尿病性腎症があげられ、「しめじ（しんけい・め・じんぞう）」と覚えられますが、その他の合併症としては「えのき（壊疽のえ・脳卒中のの・虚血性心疾患のき）」があります。いずれも比較的大い動脈に起きる障害（大血管症Ⅱ動脈硬化症）のことで、糖尿病だけでなく、他の生活習慣病も関与しています。

動

脈硬化症では動脈の血管壁にコレステロールがたまり（プラーク）、炎症をおこして硬く厚くなり、血管内径（血液

糖

尿病足病変とは足に発生する合併症です。神経障害のため感覚が鈍

が流れる部分）が狭くなり、血流不全をきたします。プラークが破たんすると血栓ができて、閉塞してしまいます。これが狭心症や心筋梗塞（虚血性心疾患）や脳卒中（脳血管障害）、閉塞性動脈硬化症（末梢動脈疾患）などになります。糖尿病ではこの危険度が、2.5倍になるといわれています。

歯

周病は歯周組織の慢性炎症で、糖尿病の（三大合併症・大血管症・足病変に次ぐ）第6の合併症ともいわれています。

また動脈硬化（末梢動脈疾患）による血流不全があると小さな傷が潰瘍や壊疽に進行し、足を切断しなければいけなくなることもあります。下肢切断の原因で糖尿病は外傷に次いで第2位です。日頃から異常を早期発見できるように、足を観察し（フットチェック）、清潔にして、爪の手入れをするなど（フットケア）が重要です。

高血糖状態では歯周病や虫歯（齲歯）も重症化しやすく、また歯周病が重症であると糖尿病のコントロールも悪化します。歯と歯肉の間の歯周ポケットに付着した菌垢に繁殖する細菌感染により歯周組織に炎症が起きます。

他にも糖尿病は感染症全般（蜂窩織炎・肺炎・結核・尿路感染症など）、手の病変（手根管症候群など）、骨質の低下による骨粗鬆症・骨折、うつ病、認知症、各種の癌（膵・大腸・肝など）の発症・悪化とも関連しています。

きれいな
ハーモニーに
包まれて・・・



～七夕コンサートを開催～

七夕コンサートが7月1日の土曜日、当院のエントランスホールで開催され、約60名の方が来場されました。

人の動き



「いちばん星☆」の二人

はみなさんにも一緒に歌って頂きました。歩行器を押しながらみえた患者さんは、「私も歌が好きなんです。久しぶりにきれいな歌声、ありがとうございます」とニコニコしながら病棟へ戻られました。

採用（6月）
染野 久美子 看護部